



## 新たな成長軸の確立に向けて



### 1. au経済圏の最大化

国内通信市場が成熟化し、お客さま数の大幅増加が困難となっていく中、国内における新たな成長軸として、「au経済圏の最大化」を目指します。

国内通信事業の持続的成長に加え、国内通信事業の基盤の上で新たな収益を創出していきます。

#### au経済圏の拡大・強化



auのお客さま基盤

### 2. グローバル事業の積極展開

国内通信市場の長期的な課題である少子高齢化・人口減少による市場縮小リスクを見据え、もうひとつの新たな成長軸の確立に向け、グローバル事業を積極展開していきます。主にモバイルを軸とした「グローバルコンシューマ事業」と、法人市場をターゲットとした「グローバルICT事業」を中心に、グローバル事業基盤の拡大を目指します。



# 1.au経済圏※の最大化

※ au経済圏とは、オンラインコンテンツから、オフラインのコンビニなどにおける実店舗決済、さらに両方にまたがるコマース・金融などを含む、auの顧客基盤上の新たな経済圏を表す

## 決済プラットフォームの整備

従来のキャリアビリング (= auかんたん決済) によるオンラインサービス取引での収益化に加え、オフライン(実店舗) サービス取引も収益化していくための決済プラットフォームとして、2014年5月に「au WALLETプリペイドカード」を、同年10月には「au WALLETクレジットカード」をそれぞれ開始しました。「au WALLET」有効発行枚数(プリペイドカード+クレジットカード)は、2016年3月末時点で1,790万枚に到達し、現在も順調に拡大を続けています。

## au WALLETの拡大

au WALLET



プリペイドカード



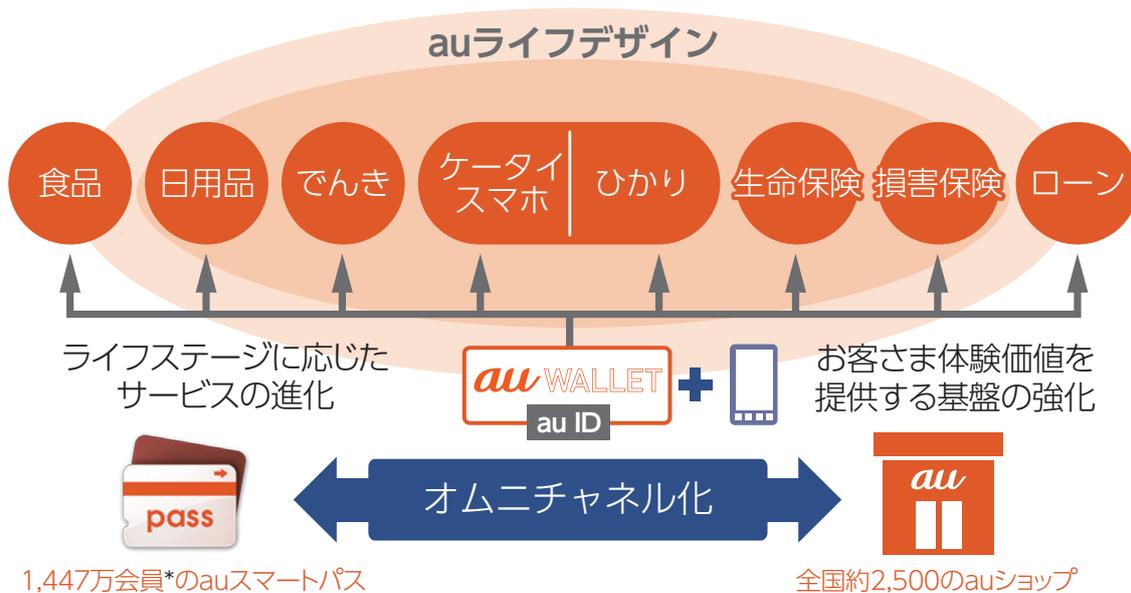
クレジットカード

## 通信企業から「ライフデザイン企業」への変革

当社は、従来の通信サービスに加え、あらゆるお客さまのライフステージに応じたさまざまなサービスを「auライフデザイン」として総合的に提供することで、既存の国内通信事業の基盤や決済プラットフォームを活かしながら、相乗効果を発揮し、au経済圏の拡大を目指していきます。

「auライフデザイン」では、auショップを活用した実店舗でのコマース事業である「au WALLET Market」やオンラインでの「au WALLET Market powered by LUXA」において、食品・日用品の販売など生活に関わるあらゆる商品・サービスを提供します。また、2016年4月からの電力小売全面自由化に伴い、各地域の電力会社から電力供給を受けてサービス提供をする「auでんき」の開始、さらには当社が出資している企業が提供する生命保険、損害保険、住宅ローンをauブランドの金融商品として代理販売する「auのほけん」および「auのローン」も扱っています。なお、商品の提供に際しては、今後迎えるIoT時代において、IoTとサービスを組み合わせるなど、通信事業者ならではの強みを生かすことにより、新たなビジネスチャンスの創出も可能と考えています。

## ライフデザイン企業への変革



\* 2016年3月末現在

## 多様なお客さま接点

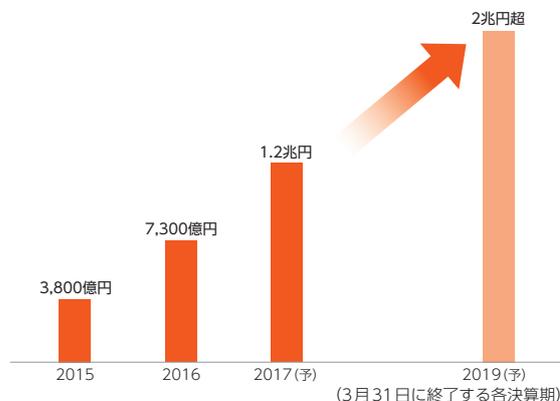
当社の強みのひとつであるお客さま接点については、2016年3月末時点で1,447万会員に達したオンラインでの接点である「auスマートパス」と、オフラインでの接点である全国約2,500店舗のauショップをさらに強化し、連携を図ることで、オムニチャネル化を推進していきます。また、2016年3月には、国内最大手のテレビ通販企業であるジュピターショップチャンネル株式会社を連結化し、新たなお客さま接点を構築しました。



この当社独自のお客さま接点を活かし、auの通信サービスに加え、電気や金融、コマースなどのあらゆる商品・サービスを「auライフデザイン」として、お客さまの趣味嗜好に応じて提案していきます。電力や金融を通信サービスとセットでご加入いただくことで、auスマートバリュー（モバイルと固定通信のセット割引サービス）での成功事例と同様に、セット割引サービスの特長である解約率低減効果が期待できるとともに、そのお支払いをau WALLEETクレジットカードで決済いただけるようになれば、お客さまにとってのメインカードとなり、流通総額の拡大とポイントの循環モデル構築につながっていくことも期待できます。

各サービスの強化に加え、当社の決済プラットフォームをご利用いただくことでお客さまへ還元されるWALLEETポイントの循環モデルの構築を通じて、2016年3月期に7,300億円であったau経済圏流通総額を、2017年3月期には1.2兆円へ、そして、中期目標の最終年度となる2019年3月期には2兆円超まで拡大することを目指します。

## au経済圏 流通総額\*1



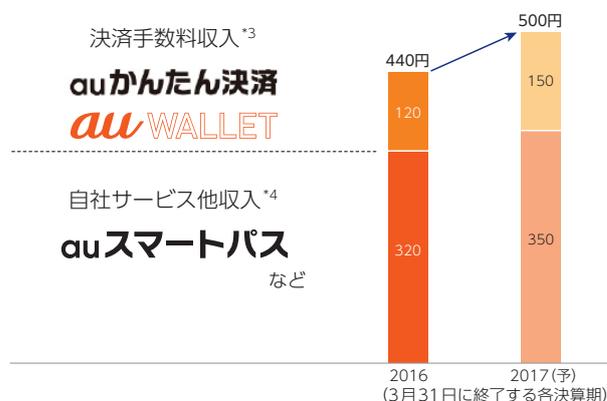
\*1 「auかんたん決済」および「au WALLEET」による決済額に加え、auのお客さま基盤上でのコマース・エネルギー・金融などの経済活動の規模を加えた指標

## au経済圏の拡大に伴う付加価値ARPAの伸張

2016年3月期における「付加価値ARPA」（auのお客さま1人当たりの付加価値売上）は440円でした。うち、auスマートパスをはじめとする自社提供サービスなどの収入分が320円、2大決済プラットフォーム（「auかんたん決済」+「au WALLEET」）を通じた決済手数料収入分が120円でした。

2017年3月期の「付加価値ARPA」は、au経済圏の拡大に伴い、au WALLEETの決済手数料収入や「au WALLEET Market」などのサービス収入が拡大することで、前期比13.6%増となる500円を見込んでいます。

## 付加価値ARPA\*2



\*2 付加価値ARPA = 付加価値ARPA対象収入（決済手数料収入 + 自社サービス他収入）÷ auお客さま数

\*3 決済手数料収入 = auかんたん決済およびau WALLEET決済手数料収入

\*4 自社サービス他収入 = auスマートパス・物販をはじめとする自社サービス販売収入および広告収入など

## 2. グローバル事業の積極展開

### グローバルコンシューマ事業

全世界における携帯電話の普及率は、2000年時点においては12.1%でしたが、2013年時点では94.4%に達しています。一方、SIMカードの複数所有を考慮した場合、人口普及率としては2013年時点で未だ約48%にとどまっており、2020年までには15億人の新たなモバイルユーザーが生まれると言われていいます。\*

当社では、グローバル事業の成長軸として、モバイルを中心とした海外通信事業を推進しています。

\*出典：総務省 平成27年版 情報通信白書

### ミャンマー通信事業において、さらなるネットワーク品質および信頼性向上などを推進中

当社連結子会社であるKSGMがMPTと共同で運営しているミャンマー通信事業において、携帯電話基地局の増設や運用体制の強化、エリア拡大などのネットワーク品質向上を行い、現在すべての州のエリアをカバーし、人口カバー率96%を実現しています(2016年3月末時点)。

今後は、さらなるエリア拡大、通信品質の向上、お客さまサポート体制の強化、ならびに旺盛なデータ需要にあわせてご利用いただきやすいサービスの拡充などを図っていきます。



### モンゴル通信事業において4G LTEを開始

2016年3月、当社は、モンゴル国内携帯電話契約者シェアNo.1のモビコムの株式を追加取得し、同社を連結子会社としました。モビコムは、お客さまからご好評いただいている「安心」「信頼感」などのブランド価値および高品質のサービスを強みとしており、2016年5月には、4G LTEサービスおよび

高速インターネット環境を利用した映像サービス「MobiPlay」を開始しました。引き続き、4G LTE対象エリアの拡大など、モンゴルの通信社会の発展に貢献していきます。



今後も、国内外で培った品質と信頼性を強みとする当社の技術・ノウハウを活かし、人口が多く経済社会が急速に発展している新興国や、3Gから4Gへのビジネスモデル革新に対する需要が顕在化するエリアなどを中心に、当社のリソースを投入し、参入国の国民の皆さまの生活の質的向上と経済発展に貢献していきます。

### グローバルICT事業

当社は、「TELEHOUSE」ブランドとして、世界13の国と地域・24都市・48拠点でデータセンターを展開しています。1980年代に米国で開業したTELEHOUSEの総床面積は、2016年3月末時点で447,000m<sup>2</sup>となっています。英国ではTELEHOUSE LONDONの拡張を進めており、最新の環境技術を活用したグリーンデータセンター「Docklands North Two」(23,000m<sup>2</sup>) が2016年夏開業予定です。

クラウドファースト時代の昨今、高い電力需要への対応と環境への配慮という、相反する課題にこたえつつ、同時にキャリア・ISP・クラウド事業者などへの接続をご提供することが、お客さまのデータセンター選定において最重要項目のひとつになっています。当社は、お客さまの主要ハブ地域において、第一にお選びいただける、接続性の高さを生かしたプレミアムデータセンター事業者として、引き続き事業規模の拡大を図っていきます。

### TELEHOUSEのあゆみ ※日本国内を除く

	1980's	1990's	2000's	2010's
米州	1989 ●New York/Teleport	1997 ●New York/Broadway 1998 ●Los Angeles		2011 ●New York/Chelsea
欧州	1990 ●London/Docklands North	1996 ●Paris/Jeuneurs 1997 ●London/Metro	1999 ●London/Docklands East ●Paris/Voltaire	2009 ●Paris/Magny 2010 ●London/Docklands West 2011 ●Istanbul 2012 ●Frankfurt ●Moscow 2016 ●London/Docklands North Two
アジア			2000 ●香港 ●ソウル	2008 ●北京/BEZ ●シンガポール 2010 ●Hanoi ●上海/張江 2011 ●香港/CCC 2013 ●北京/BDA ●上海/金橋
アフリカ				2009 ●Cape Town 2010 ●Johannesburg